

サッカートップアスリートに関する研究  
- サッカーにおけるサイドバックの重要性 -  
松田 陸 (競技スポーツ学科 コーチングコース)  
指導教員 松田 保

キーワード：1対1の攻撃と守備，日本と世界のトップとの差

### 1. 緒言

現在、日本サッカーは進化し続け世界に近づいていると言われているが、本当に日本のサッカーが世界のサッカーに近づいているかに疑問を持ち、分析検証しようと考えた。サイドバックが中心となり自分で持ち上がってセンタリングでアシストをしたりパスでゲームを組み立てたりドリブルで局面を開くことが理想とされている。

FIFA コンフェデレーションズカップ 2013 で優勝をしたブラジル代表も両サイドバックのダニエル・アウベスとマルセロの仕事量が際立っていた。そこで筆者もサイドバックをしているのでサイドバックの重要性について研究しその役割を分析する。

### 2. 研究方法

本研究の調査対象は FIFA コンフェデレーションズカップ 2013 のビデオでのブラジル代表のダニエル・アウベスと日本代表の長友選手それぞれの試合での1対1の勝敗に着目して行う。日本代表の試合とブラジル代表の試合すべてを見て2人の選手を比較する。

### 3. 結果と考察

長友選手とダニエウ・アウベス1対1の攻撃と守備の結果、長友選手はイタリア戦守備勝ち3回、負け2回、攻撃勝ち4回負け2回。

ブラジル戦、守備勝ち1回、負け6回、攻撃勝ち2回、負け5回。

メキシコ戦、守備負け3回、勝ち5回、攻撃勝ち5回、負け3回

ダニエウ・アウベスはイタリア戦、守備勝ち

5回、負け2回、攻撃勝ち6回、負け3回。

メキシコ戦、守備勝ち7回、負け2回、攻撃勝ち6回、負け1回。

日本戦、守備勝ち5回、負け2回、攻撃勝ち6回、負け1回

### 4. まとめ

本研究ではサイドバックの重要性について研究を進めてきたが、サイドバックは攻撃だけでは役割を果たせていないと筆者は考えた。攻撃だけではなく守備のことも調べた。日本のサイドバックのアシストはセンタリングが多い。だが、南米のサイドバックは自分で仕掛けて言うてクロスよりもより攻撃的なパスのほうが多いということがわかった。

#### 引用・参考文献

岸本 淳佑 (2012) 現代サッカーにおける攻撃面でのサイドバックの重要性

中村 泰助 (2010) サッカーにおける守備の重要性についての研究

佐藤 友哉 (2011) 2対1の守備戦術ワンサイドカット